


御前山ビオトープ通信

平成17年6月20日

第16号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページ掲載記事を再編集したものです)

【案内図】



目次

- 1 第3回引っ越し大作戦
- 2 古代米の田植え、不耕起栽培

日時：平成17年6月14日(火)午前9時半から

場所：御前山ビオトープ

伊勢畑小学校の総合学習

昨年度は

第1回目(6月)は湿地性植物のクマガイシ、アキナシ、カゲシクリを

第2回目(11月)はハッコウトンボの移植を行いました。

今年は、

第3回目(6月)として林間の植物フカアオイ、イシヨウマを森の中に移植しました。

また、古代米の栽培として、昨年の黒米に加えて赤米、緑米も田植えしました。しかも、生態系に配慮してシロカキしないで田んぼに手植えする「不耕起栽培」に挑戦です。

1 第3回引っ越し大作戦

まず、階段教室で希少植物の説明

今回移植するフカアオイとイシヨウマについて、名前の由来や生息環境などについて勉強しました。

早速、森の中に入ってフカアオイの移植です。イシヨウマは細くて弱そう。木漏れ日の当たる森の出口に移植しました。移植作業も終わって帰り道、昨年度移植した水路のカゲシクリ湿地のアキナシ、クマガイシの生育状況を観察

新しい環境で立派に成育していました。



2 古代米の田植え、不耕起栽培

休憩の後、今度は田んぼに戻って古代米の田植えです。

不耕起栽培の目的や田植えの方法について説明を受けました。田んぼはシロカキをしていないのでカエルなどがビョンビョン走り回っています。ぬからないので長靴で歩き回れます。土が硬いところは棒で穴を開けて植え付けしました。

こんなに硬くても稲は育つのでしょうか。田植えも何とか終了、黒米、赤米、緑米があり、秋には色とりどりの田んぼになると期待しています。

最後に児童代表の挨拶

秋の稲刈り、脱穀などの収穫作業が楽しみです。暑い日でしたが、ご苦労様でした。



日本農業新聞

2005年(平成17年)6月15日(水曜日)



古代米の田植えに汗を流す伊勢畑小の児童

山前・御前山
ブ
ト
ピー
茨城

児童ら希少動植物引越し 古代米の田植えも

【茨城・常陸】関東農政「守っていき」と、昨年旧局那珂川沿岸農業水利事業所が、常陸大宮市松山地区や同市立伊勢畑小学校児童らと進めている「御前山・ハツチョウト」で14日、希少動植物の引越しと古代米の田植えが行われた。ビオトープは、御前山ダム工事で水没してしまいう希少動植物を移植して行われた。今回はフタバアオイ、イヌシヨウマなどを、ビオトープ周辺の林間に移した。田植えは黒米、赤米、緑米の3種で、しかも生態系に配慮して代かきしない田んぼに手植えする。児童たちは地元の人たちから作業の説明や田植えのこつを教わった後、田んぼに入り、慣れない作業ながらも30分ほどで苗を植え終わった。6年生は泥んこの顔をほころばせながら「こんなお米ができるか秋が待ちどほしい。わくわくしながら田植えを楽しんだ」と満足そうに話していた。

